

## なからぎ

186号

2009年1月

## 開架方式の図書館

学長 竹葉 剛

昨年の秋、富山大学を訪れる機会があり、その附属図書館を見せていただいた。5階建ての大きな建物の各階をすべて開架方式にして、学生は約130万冊の図書を自由に閲覧できるようになっていた。平日は夜10時まで、土日も開館しており、学生の利用・満足度も高いとのことであった。何か調べようと思っても実際に本を手にとってページをめくってみないと、探している情報があるかどうか分からない。すべて開架方式というのは、学生にとって非常に利用しやすい方式だと感じた。

附属図書館をはじめ本学の蔵書数は約40万冊であるが、開架方式で閲覧できるのはそのごく一部であり、入学した学生の中には開架書棚にあるだけの本しかないのか、と思う学生もいるらしい。本学では、著者名や書名等がわかれば、検索してその本を直接書庫から出して閲覧することはできる。しかし、検索されない本は書庫に眠ったままになり、閉架方式は購入した本が活用されにくい方式とも言える。本学では土日に開館されておらず、その点も課題になっている。

一方で、新しくできた学科などでは、学科の図書資料室があり、それらは開架方式であるので、学科によっては、その部屋の鍵さえ借りれば、土日を含めていつでも調べられる利点がある。附属図書館の書庫が満杯のために始まった方式だと思うが、その学科に関係する専門書が揃っているので、学生にとっては学科の図書資料室の方が利用しやすいのではないか。

本学では、学部・研究科の改編に伴うスペース増、老朽化した施設の建て替え、食堂や自習室など学生のための施設建設が、大学全体の大きな課題となっている。現在、それらの施設整備に向けて、設置者と協議が重ねられているが、図書館の整備も大きな課題である。

京都市には37の大学があり、各大学に附属図書館がある。コンソーシアム京都に加盟の大学間では、学生証を見せれば（一部の大学を除き）図書館が利用できることになっている。各大学が別々に蔵書数を競い合う時代ではない。冒頭で紹介した、富山県で唯一の総合大学である富山大学と本学とでは、このような状況の違いもある。本学に隣接する府立総合資料館との連携も視野に入れる必要がある。

本学としてどのような方向で図書館を整備していくべきか、学内での更なる論議を期待したい。

## 本から学ぶ

図書館運営委員 内田保博

教育・研究に携わる中で、少なからず影響を受けた本は多い。特に大学院生や助手のときに読んで感銘を受けた本は、その後の教育・研究の貴重な糧となっている。若いときに良書にめぐり会うことは、幸せなことだと思う。

私の専門は建築構造学であり、環境デザイン学科で「構造力学」や「建築構造」を教えている。本学科に限らず工学部の建築学科でも、数学や物理の基礎知識が不足している学生が比較的多いため、建築構造を学生に分かりやすく説明し興味を持たせることが重要になってくる。建築構造の入門書は数多くあるが、若い頃に読んで自分の専門を再認識させられ、学生に薦めている本をまず 2 冊紹介する。

大崎順彦著「地震と建築」(鹿島出版会、岩波新書)は当時難解な専門書しかないときに、地震工学の第一人者によって平易に著された一般書である。この本を読んで耐震工学を専門とした人は多いのではないかと思う。事実、私の研究室の学生もその一人である。

本書の内容は、小松左京氏の長編小説「日本沈没」のハイライト「東京大地震」から始まり、「地震の歴史」、「地震動の性質」、「地震動の破壊力」、「地震と震害」、「耐震設計」等となっている。「地震の歴史」では、菅原道真の地震に対する考えが述べられており、当時の知識レベルの高さに驚く。道真が 26 歳のときに方略試-いまでいえば国家公務員上級試験-を受験しており、そのときの論文の課題の 1 つが「地震について論ぜよ」であった。道真は儒・道・仏の三教の文献を引用し、中国の震害の事例を示すとともに、人

類史上最初の地震計である候風地動儀について触れている。

「地震動の性質」及び「地震動の破壊力」では、地震の最大加速度、継続時間、周期特性等が分かりやすく説明されている。特に複雑な地震動の波形を単純な単振動に分解できることを示すフーリエスペクトル、固有周期、応答スペクトルの一般向けの解説はその後の耐震工学の入門書に影響を与えた。また、地震が多い我国でなぜ超高層建築が可能なのかについても明快に答えている。

M. サルバドリー/R. ヘラー共著/望月重訳「建築の構造」(鹿島出版会)も優れた建築構造の入門書である。この本の特徴は、荷重、材料から始まり、梁、架構、板、シェルと構造全般を数式による説明を用いずに図を用いて説明することにある。サルバドリー氏は薄肉シェル(貝殻)構造を専門としており、この本の他にも建築構造及び設計に関する入門書を著している。10 年ほど前に米国に在外研究員として滞在したとき、建築構造の入門書を探したことがあったが、本書以上に建築構造の力の流れを明快に述べ、数式を用いずに直観により構造を理解することを説いた本は、他に見当たらなかった。

本書の中で薄肉シェル構造に関する記述は特に初心者理解しやすいと思う。シェル構造の例を本文中に載せているので、参照されたい。このシェルは鉄筋コンクリートの自由曲面であり、この形を力学的に理解することは難しい。しかし本書では、単一のシェル構造を対象に、曲面に生じる力、これを支える曲面周辺のリブの働きについて、専門知識

が無くても理解できるように、工夫されている。シェル構造以外にも、アーチ状屋根、膜構造、折板構造等の力学的説明がなされている。設計演習の課題として体育館等の大空間構造を与えたとき、学生に直観的に力の流れを理解させるため、本書の説明を参考にして

いる。  
次に同じく大学院生時代の若い頃に読んで、感銘した自伝を 2 冊紹介する。

チモシェンコ著、田中勇訳「チモシェンコ自伝—思い出すままに—」(東京図書)は、建築・土木・機械等の工学分野の著名な学者の一生が、晩年に淡々と綴られた本である。理学系の科学者の自伝が比較的多い中で、数少ない私の専門に近い工学系科学者の自伝である。チモシェンコ氏は米国では「応用力学の父」と呼ばれており、彼の著書である「弾性安定の理論」、「材料力学」、「弾性論」、「材料力学の歴史」等の訳本は我国でも出版されて広く読まれており、当時の学生のバイブル的な存在であった。

チモシェンコ氏はロシアで生まれ、米国に渡った後大学で教鞭をとりながら、数学を用いて多くの工学上の問題を単純明快に解いて高い評価を得ている。自伝の中で彼の研究・教育生活や著書を著した経緯が詳細に述べられており、偉大な学者が身近に感じられるとともに、教育・研究職を目指していた私にとっ

て大変参考になった。

広中平祐著「学問の発見」(佼成出版社)にも、専門分野は違うが感銘を受けた。本書では、世界的数学者の人生と学問が語られている。広中氏は日本の大学を卒業後米国の大学で教育・研究を行うとともに、「複素多様体の特異点に関する研究」でフィールズ賞を受賞されており、その業績は高く評価されている。

本書では広中氏の研究生活のみでなく、創造の喜びや研究者の人生哲学が自分の体験に基づき語られている。例えば、創造の方法の基礎になるのは「素心」を失わないこと、すなわち「素朴な心に帰って深く考え直せ」と述べられている。また問題を解く上で、「単純明快」であることが重要と説かれている。これは、問題を理想的な形にすること、あるいは純粹で無垢な形にして解きかかることが、創造には大切なことであることを意味する。この他にも学問する上での大切な点が語られており、本書により研究する際の心構えを学んだように思う。

以上 4 冊の本を紹介したが、若い頃に読んで感銘を受けた本は今でも大事にしている。今回改めて読み直してみて、当時の新鮮な感動を思い出した。若い人には、是非このような良書にめぐり会えることを願っている。

(うちだ やすひろ 生命環境科学研究科教授)



シェル構造の例 (ぐりんぐりん、設計：伊藤豊雄・佐々木陸朗)

御紹介の「地震と建築」(請求番号 524.91 || O)、「建築の構造」(請求番号 524 || S)、「チモシェンコ自伝—思い出すままに—」(請求番号 289.3 || T)、「学問の発見」(請求番号 289.1 || H)を 2 階閲覧室入口の新着図書コーナーに配架していますので、御利用ください。

# 貸出冊数 最高記録 日々更新中!

2008年11月末現在、本学図書館の貸出冊数が、至上最高を更新し続けています【グラフ1・2参照】。その冊数たるや半端ではありません。昨年同期比2,000冊近い増加なのです。学生数が院生を含めても2,000人程度の本学でこれはすごい数。明るいニュースの筆頭です。

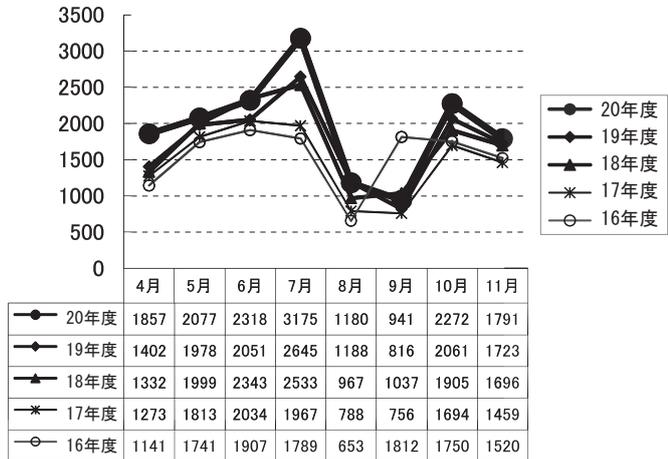
利用実績の統計を見て、その要因を考えたところ…今年から全学的に取り組みの始まった新生ゼミナール（以下新生ゼミ）が、関係しているのではないかと思います。

新生ゼミは、高校までとは異なる大学教育の基本を身につけてもらう基礎教育として今年から始まりました。その中で、先生方が課題図書を選定され、図書館は、所蔵していなかったものは購入し、既に入っているものには「新生ゼミナール」というキーワードからも探しだせるようにしました。

その結果、195タイトルの課題図書のうちなんと121タイトルが貸し出され、11月末までの延べ貸出冊数は275冊になりました。

この冊数は、全貸出冊数からすると微々たる数字に見えます。しかし、課題図書を読んだ学生さんが、今度はその本に載っていた参考文献を読む、書架の同じ辺りに並んでいた関連図書を読むというふうにより、学習（読書）のつながりや広がりになり、どんどん貸出が伸びていったのでは？

【グラフ1】月別貸出冊数推移（平成16～20年度）



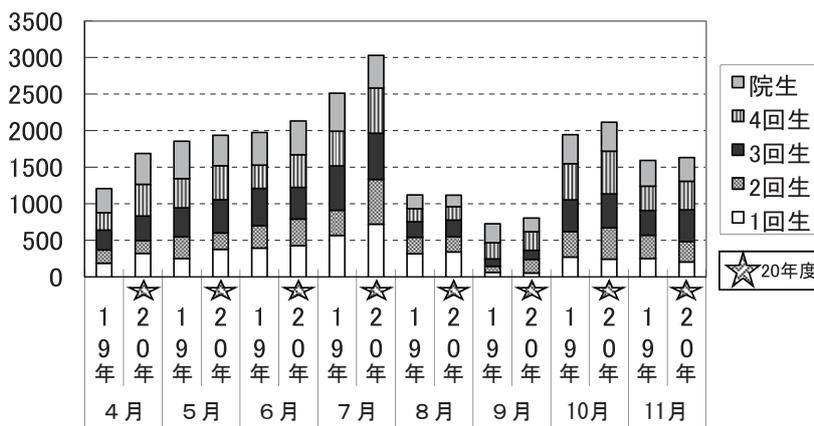
【図1】新生ゼミ選定図書ベストリーダー 上位25タイトル

新入ゼミ順位	順位	タイトル/著者	分野	新入ゼミ順位	順位	タイトル/著者	分野
1	43	フーコー入門 (ちくま新書:071)/中山元著	公共政策	16	398	GISと地域の森林管理 (林業改良普及双書:156)/松村直人編著	生命環境
2	63	建築MAP 京都/ギャラリー・間編	生命環境	16	398	儒教とは何か (中公新書:989)/加地伸行著	生命環境
3	68	スピリチュアルにハマる人、ハマらない人 (幻冬舎新書:4)/香山リカ著	文学	16	398	森が消えれば海も死ぬ:陸と海を結ぶ生態学 (ブルーバックス:B-977)/松永勝彦著	生命環境
4	121	貧困の克服 (集英社新書:0127A)/アマルティア・セン著/大石りら訳	公共政策	21	473	子どものトラウマ (講談社現代新書:1376)/西澤哲著	公共政策
5	125	セカンドブレイン:脳にも脳がある!/マイケル・D・ガーション著/古川奈々子訳	生命環境	21	473	砂糖の世界史 (岩波ジュニア新書:276)/川北稔著	文学
5	125	酵素反応のしくみ:現代化学の最大の謎をさぐる (ブルーバックス:B-1152)/藤本大三郎著	生命環境	21	473	ぼくたちは生きているのだ (岩波ジュニア新書:540)/小林茂著	文学
7	174	若者と現代宗教:失われた座標軸 (ちくま新書:226)/井上順孝著	公共政策	24	600	若者が「社会的弱者」に転落する (新書y:074)/宮本みち子著	公共政策
8	209	「不自由」論:「何でも自己決定」の限界 (ちくま新書:432)/仲正昌樹著	公共政策	24	600	教育改革の幻想 (ちくま新書:329)/刈谷剛彦著	公共政策
8	209	纏足(てんそく)の発見:ある英国女性と清末の中国 (あじあブックス:059)/東田雅博著	文学	24	600	男女共同参画の時代 (岩波新書:新赤版 867)/鹿嶋敬著	公共政策
10	234	崩食と放食:NHK日本人の食生活調査から (生活人新書:205)/NHK放送文化研究所世論調査部編	生命環境	24	600	フロイト入門 (ちくま新書:254)/妙木浩之著	公共政策
11	267	国連とアメリカ (岩波新書:新赤版 937)/最上敏樹著	公共政策	24	600	循環型社会:持続可能な未来への経済学 (中公新書:1743)/吉田文和著	生命環境
12	297	植物が地球をかえた! (植物まるかじり叢書:1)/葛西奈津子著	生命環境	24	600	「食」の課外授業 (平凡社新書:304)/西江雅之著	生命環境
13	320	女性労働と企業社会 (岩波新書:新赤版 694)/熊沢誠著	公共政策	24	600	現代美術の教科書/美術手帖編集部編	生命環境
13	320	森との共生:持続可能な社会のために (丸善ライブラリー:322)/藤森隆郎著	生命環境	24	600	建築に夢をみた (NHKライブラリー:149)/安藤忠雄著	生命環境
13	320	市民のための環境学入門 (丸善ライブラリー:276)/安井至著	生命環境	24	600	日本人のしつけは衰退したか:「教育する家族」のゆくえ (講談社現代新書:1448)/広田照幸著	公共政策
16	398	京の和菓子:暮らしを彩る四季の技 (中公新書:1806)/辻ミチ子著	生命環境				

\*貸出回数と同じものは、利用人数が多いものを上位としました。

一箇所に集めずに、あくまで各分野の書架と一緒に並べたことも功を奏していると思います。カウンターでは何度も「新入生ゼミの本は、どこにありますか?」という質問を受けました。その都度「コンピュータを使って図書館のHPから検索して、所在や請求記号を確認して、探してください。」と案内していました。一見めんどくさそうなこの行程、実は図書館の使い方、資料へのたどり着き方が学べる機会となったのでは? 目的の書架へ行く途中には、他の図書も目に入ります。そこから

【グラフ2】 学年別月別貸出冊数比較 (平成19・20年度)



どんどん知的欲求が刺激されていったのでは?

また、図書館では、数年前から先生方と協力して、図書館が学生さんたちの自主的な学び・調べの場となるように、入門書や概説書などを重点のひとつとして受け入れています。また、各教科の参考図書、講義で紹介されている参考資料も全点購入を目指して受け入れています。予算に限りがありますが…

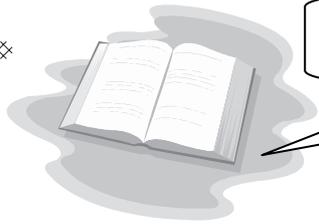
先日、ある先生から「○△□の本を学生に読んで欲しいので、購入してもらえませんか。」という依頼を受け購入したところ、早速先生から「図書館に入りましたよ、と講義で紹介しました。」という報告をいただきました。

必要なときに頼りにしてもらえよう、ずっと使い続けてもらえよう、ここに来れば何かしら出会いがあるよう、図書館はこれからも努力していきたいと思います。この貸出冊数の増加は、本学の未来への明るいひとつの光です。

【図2】 2008年4～11月までのベストリーダー 上位50タイトル

順位	タイトル / 著者	順位	タイトル / 著者
1	探偵ガリレオ (文春文庫:[ひ-13-2])/ 東野圭吾著	21	有頂天家族 / 森見登美彦著
2	図書館戦争 / 有川浩著 / 徒花スクモイラスト	28	ブルーベリー / 重松清著
2	ダイニング・アイ / 東野圭吾著	29	ハート基礎有機化学 3訂版 / H.ハート, L.E.クレン, D.J.ハート共著 / 秋葉欣哉, 奥彬共訳
2	チーム・バチスタの栄光 上 (宝島社文庫:[599, 600])/ 海堂尊著	30	生化学・分子生物学 第2版 / William H. Elliott, Daphne C. Elliott [著] / 清水孝雄, 工藤一郎訳
2	チーム・バチスタの栄光 下 (宝島社文庫:[599, 600])/ 海堂尊著	31	日本古代労働力編成の研究 / 榎木謙周著
2	乳(ちち)と卵(らん) / 川上未映子著	32	天文法華(てんぶんぼつけ)の乱: 武装する町衆 / 今谷明著
7	海辺のカフカ 下 (新潮文庫: む-5-24, む-5-25) / 村上春樹著	33	子育ての町・伏見: 酒蔵と地藏盆 / 伏見のまちづくりをかんがえる研究会, 子どもの生活空間研究グループ著
8	海辺のカフカ 上 (新潮文庫: む-5-24, む-5-25) / 村上春樹著	34	重力ピエロ / 伊坂幸太郎著
9	容疑者Xの献身 / 東野圭吾著	34	アフターダーク / 村上春樹著
9	図書館危機 / 有川浩著 / 徒花スクモイラスト	34	魔王 / 伊坂幸太郎著
11	図書館内乱 / 有川浩著 / 徒花スクモイラスト	34	風に舞いあがるビニールシート / 森絵都著
11	片想い (文春文庫:[ひ-13-4])/ 東野圭吾著	34	私の男 / 桜庭一樹著
11	別冊図書館戦争 1 / 有川浩著 / 徒花スクモイラスト	34	ノルウェイの森 下 / 村上春樹著
14	図書館革命 / 有川浩著	41	ハリー・ポッターと謎のプリンス 上 / J.K.ローリング作 / 松岡佑子訳
15	中国歴史研究入門 初版 / 磯波護, 岸本美緒, 杉山正明編	42	生命科学のための無機化学・錯体化学 / 佐治英郎編集
16	陰日向に咲く / 劇団ひとり著	42	新世界より 下 / 貴志祐介著
16	ノルウェイの森 上 / 村上春樹著	43	フーコー入門 (ちくま新書:071) / 中山元著
18	「新釈」走れメロス: 他四篇 / 森見登美彦著	44	薬理学: 基礎から薬物治療学へ (薬学テキストシリーズ) / 渡辺稔編著 / 今泉祐治 [ほか] 著
19	ゴールデンランパー / 伊坂幸太郎著	44	「あつ、忘れてた」はなぜ起こる: 心理学と脳科学からせまる (岩波科学ライブラリー:133) / 梅田駿著
20	静岡県史 資料編 7 / 静岡県編	46	植民地朝鮮の日本人 [改訂] 第2刷 (岩波新書: 新赤版 790) / 高崎宗司著
21	死神の精度 / 伊坂幸太郎著	47	Plant anatomy (Benjamin/Cummings series in the life sciences) / James D. Mauseth
21	14歳 / 千原ジュニア著	47	ドイツ文学案内: 代表的作家の生涯・主要作品・文学史年表・翻訳文献等の立体的便覧 増補改訂版 / 岡田朝雄, リンケ珠子著
21	風の歌を聴け (講談社文庫:[む-6-22])/ 村上春樹 [著]	47	Alpine plant life: functional plant ecology of high mountain ecosystems 2nd ed / Christian Körner
21	アヒルと鴨のコインロッカー (創元推理文庫) / 伊坂幸太郎著	47	大学編入・大学院入試合格! 論文の書き方 / 中央ゼミナール編
21	流星の絆 / 東野圭吾著	47	Unaccusativity: at the syntax-lexical semantics interface: pbk (Linguistic inquiry monographs:26) / Beth Levin and Malka Rappaport Hovav
21	太陽の塔 / 森見登美彦著	47	封建社会 / マルク・ブロック [著] / 石川武 [ほか] 訳

※ 順位欄がグレーに白文字のタイトルは、学生希望図書  
 ※ 順位欄が網掛けになっているタイトルは、新入生ゼミ選定図書



## 書架を全部確認しましたか？

カウンター前の大型本コーナーに気づいていますか？  
その名のとおり、書架を有効活用するために、大きな本を集めたコーナーです。本学では、表紙の高さが 28cm 以上の大きな図書（変型本を含む）が、大型本のコーナーに配架されています。

建築や美術関係の本が目立ちますが、全分野の大きな本が並んでいます。

自然科学分野の「生物学」「生化学」「遺伝学」などの基本図書も、大きいためにここに並んでいます。先生が「図書館にあるから、読みなさい。」と言われたのに、いつも利用している一般の書架では見つからなかったのであきらめた、なんて経験はありませんか？図書館で貸出統計の上位にいつもあがっている『ヴォード基礎生化学』や『細胞の分子生物学』は、実はここに並んでいるのです。

また、最近入ったものでは『二十四史』が、大型本の歴史・地理分野（請求記号の背ラベルの上段が 2 から始まっている）のところに並んでいるのも要チェックです。

書架へ直接行って探すことももちろん大切な図書へのたどりつき方です。しかし、先生が言われたのに見つからないときは、ちょっと落ち着いて、図書館 HP の図書検索で調べたり、カウンターの職員に聞いてみましょう。大型本だけでなく、書庫の中の本も見つけることができます。書架の前で「ない！」と怒る前にちょっと深呼吸。

図書館の資料は、皆さんと出会えるのを書架でひたすら待っているのです。

## カレンダー

2009年 1月							2009年 2月							2009年 3月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14	8	9	10	11	12	13	14
11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21	15	16	17	18	19	20	21
18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28	22	23	24	25	26	27	28
25	26	27	28	29	30	31								29	30	31				

- ★1/1(木)～4(日) 年末年始休館
- ★1/5(月)～8(木) 冬期休業のため、16:45閉館
- ★1/9(金)～  
通常開館 9:00～21:00  
通常貸出 (貸出冊数6冊以内、返却期限2週間以内)
- ★1/12(月) 休館 成人の日
- ★1/16(金) 冬休み貸出返却期限

- ★2/2(月)～13(金)  
通常開館 9:00～21:00
- ★2/2(月)～ 春休み貸出実施  
貸出冊数6冊以内  
返却期限 在学生 4/10(金)  
卒業予定者 2/27(金)
- ★2/11(水) 休館 建国記念の日
- ★2/16(月)～ 春期休業のため、16:45閉館

- ★3/2(月)～19(木)  
春期休業のため、16:45閉館
- ★春休み貸出実施  
貸出冊数6冊以内、返却期限 在学生4/10(金)
- ★3/20(金) 休館 春分の日
- ★3/23(月)～31(火)  
蔵書整理のため閲覧室休室  
この間、閲覧・複写・照会等の業務は停止します。  
3F各室は利用可能です。2Fカウンターで申し込んでください。  
返却は図書館2F西側の「図書館ポスト」をご利用ください。

### 開館時間等

下記以外の1/9(金)～2/13(金)通常開館	9:00 ～ 21:00
1/5(月)～8(木)、2/16(月)～3/19(木)	9:00 ～ 16:45
休館日	年始(1/1(木)～1/4(日) 土・日・祝 ※(閲覧室休室) 3/23(月)～31日(火)

※は、諸般の都合で、変更になる場合があります。その際は館内掲示等でお知らせします。